

令和7年第3回教育委員会定例会 議事録

1 教育長あいさつ

2月19日（水）には学校保健会総会並びに研修会にご参加いただき、ありがとうございました。新会長のもと新たなスタートが切られました。一方で、研究成果物である「江津の学校保健」廃刊の提案がありました。創刊号は昭和63年で、会長は能美先生、当時の教育長は山藤通之先生との記録がありました。今年度は第37号での廃刊となるようで、寂しさも感じます。研修会では、島根大学医学部看護学科の稲垣特任教授から「思春期の子どもの心を読み解く」という演題でお話がありました。私の感想ですが、「子どもは先生にほめられるとうれしい」という当たり前ですが、教師が忘れがちなこと。「心の筋肉（筋力）を鍛えることが必要」失敗してもよい、劣等感を経験することが重要とも強調されていました。

うれしい報告を2点。2月17日（月）の山陰中央新報こだま欄に、出雲市の青木幸美さんという方から、青陵中学校2年生による一人討論が素晴らしいとの掲載がありました。委員の方からもこのことについて話題にされたので、青陵中生徒の書いた意見文を校長の協力を得て取り寄せました。お手元にお配りしております。与えられたテーマについて、自分の考えを文章にして表現することはとても大切なことです。社会に出たら必須の事柄ですので、小中高生の時からこういう経験はとても有益だと考えます。ただ、最近では、実際にペンを取り書きまとめるという作業ではなく、タブレットなどのワープロ機能を使うことも増えているようです。さらには、生成AI検索を使い、原案として活用する生徒も出ているのではないのでしょうか。ちなみに、例題を一つ紹介します。「美術館での鑑賞は一人が良いか、友達と一緒にが良いか」というタイトルに対して、「私は友達と一緒に美術館で鑑賞することを選びます。一人で鑑賞を楽しむことは、静かな環境の中で、作品に集中し、作品と向き合うことで、自分自身とじっくりと対話する時間をもつことができ、自分の感性や考えを深めることができるという人もいるかもしれませんが。しかし、私は友達と一緒に行くことで、作品について話し合ったり、感想を共有したりすることで新たな視点や発見が生まれると思います。また、友達と一緒にいることで楽しい時間を共有でき、作品と一緒に楽しむことでより思い出深い体験となるでしょう。」 皆さん、どうでしょう。実は、この意見文は、無料AIアプリからの回答文です。

続いてうれしかった報告は、高角小学校6年藤井さくらさんが全国大会入賞者となりましたので、昨日激励金を贈呈しました。内容は、第36回読書感想画コンクールで小学校4・5・6年の部で文部科学大臣賞を受賞されました。今週末、東京での授賞式に参加されます。このコンクールには全国で568,651点の応募があり、各都道府県での地方審査、小中高で516点が代表作品として中央コンクールに、中央審査で3次にわたる厳正な審査の結果、32点を入賞と決定。中でも最高賞となる文科大臣賞を受賞とのこと。図工の時間に描いたのではなく、約1カ月間、放課後を使い、図書館で作品制作に取り組んだとのことでした。

それでは、本日の定例会も、慎重なる審議、また忌憚のない意見交換や質問をお願いいたします。

2 教育長の報告（別紙 教育長勤務報告のとおり）

3 議事録署名議員

○教育長

本日の署名委員は、天倉委員と佐々木委員にお願いします。

4 議決

① 江津市立小、中学校の教職員の服務規則の一部を改正する規則制定について

○大石課長より説明

県の服務規則の改正に伴い、市の規則を改正するもの。

(改正内容)

・出勤簿についての押印の廃止。ただし、出勤簿の様式はそのまま残し、システムが配備されていない教職員が利用。押印しなくてもチェック等で管理する。

・勤務記録の提出について、新規採用職員のみ提出することに改正。

<全員一致で承認>

② 江津市ふれあい公園水の国設置及び管理に関する条例施行規則を廃止する規則制定について

○大賀課長より説明

<委員からの意見・質疑なし>

<全員一致で承認>

③ 松林宗恵映画記念館管理に関する条例施行規則を廃止する規則制定について

○大賀課長より説明

<委員からの意見・質疑なし>

<全員一致で承認>

5 報告事項

① 県学力調査結果の概要について

○泉指導主事より令和6年度島根県学力調査・江津市学力調査の結果について説明

<委員からの意見・質疑等>

○天倉委員

相対的には非常によく頑張っていると思う。年度、年度で一喜一憂せずに、見守っていくのがよい。

教科の特性が随分出ているなど感じる。理科については、実験などもあり、いかに子どもに興味を持たせて取り組ませるかが非常に大事なポイントになってくる。

○佐々木委員

毎年、数値的なものや意識調査という形で出てくるが、基本的には子どもたちに興味を持たせ、好きにさせるということを根底に置いた取り組みが必要。

数値的なものは個体差もある。学校教育の中で、教科を教えるのではなく、好きにさせるという意識が学校の姿勢の中にあることが望ましい。

テストの点数よりも、どうやって教科を好きにさせるか、学校を好きにさせるかというのが大前提になってくると思う。まずは好きでないと前に進まない。好きになれば、成績的にも伸びてくるだろうし、前向きな姿勢ができてくるはず。先生を嫌いになると、評価も当然、マイナスになってくる。

○福田委員

先日の新聞に、テストの白紙回答率についての記事が載っていた。江津市は全国平均に比べて白紙回答が低く、これはすごく評価すべきことだと思う。一生懸命回答しようと努力することは、それが間違っていたとしても意味があり、そういう気持ちが大事。まずこの点について、正当率がどうこうというよりもそこはとても評価したい。

中学校の英語の結果が毎年厳しいのではないかと。後は、その学年の個体差みたいなものもあるので、結果として受け取めればいい。全体的にすごく頑張っていると思う。

○教育長

委員の皆さんから大変重要な視点からご指摘いただきありがたい。

タブレット活用については、今年度、大きく改善のスタートが始まったと感じている。

指導主事からも報告があったが、同じクラスの中でも使用頻度に差がある。子どもたちが自立した学習者になっていくと、先生の指示なしでもタブレットをノートや筆箱のように使い、自分で記録をしたり意見をまとめたりできるようになるとよい。できれば毎日使っているという感覚になってくれることを目指している。

先ほど先生に褒められる、認められるという話題がでたが、一番身近な大人である教師に認められることの大切さは言うまでもない。校長会でも話していきたい。

○福田委員

タブレットについては、小学校を見ると、ほぼ毎日使っている学校もあるが、中学校に行くとあまり使われなくなる。中学校では使いづらさみたいなものがあるのか。

○泉指導主事

小学校は、教科の切り口・ICTによる切り口など色々な切り口がある。中学校は教科の壁というのが本当に高い。ICTという教育の切り口からいけば、どの教科においても話ができて、みんなで研究を進めていけると思うが、中学校の先生にはそういう感覚がないように思う。

○教育長

来年度の改善に期待をしたいが、教科によっては、ほぼ毎日・毎時間使われる教員もいたり、全く使わない教員もいる。

○佐々木委員

子どもたちに興味を持たせるとか、タブレットを使った授業が本当に面白いというような形になれば変化がでるはず。

○教育長

タブレットはただ使えばいいというのではなく、それを使ったことで、教科の学習が好きになったり、興味をより高めるためのツールとして活用してほしい。

○福田委員

ここ何年かの子どもたちはタブレット世代というかタブレットで学習をするのが当たり前になってきていると思う。小学校でタブレットを使って学習してきたのに、中学校では、タブレットでは学習しないというふうになるのが一番怖い。ぜひ小学校・中学校と継続的に活用してほしい。

○教育長

小学校の先生方も、中学校では使用率が上がっていないことを知っておられて、非常に残念に思っただけで先生方も多いと聞いているので、中学校でも頑張って活用してほしい。

② 令和7年度 公立高等学校入学者選抜(特色入学者選抜)について

○泉指導主事より説明

学生が多様な選択肢の中から主体的に高校を選ぶことができるようにする制度

【変更のポイント】

○推薦入学者選抜」を廃止し、「総合入学者選抜」を新設

・中学校等の校長の推薦を必要としない「総合選抜」を新設

・募集人数は、入学定員の10%～40%程度までで各学校が設定

○スポーツ推進指定校入学者選抜の変更

・中学校長の推薦を廃止し、中学校長や指導者等による活動実績の証明を求める。

○特色入学者選抜における出願資格の要件に各高校が定める出願基準を設定

< 委員からの意見・質疑等 >

○福田委員

特色入学者選抜が1月下旬に実施されたが、不合格の時は、一般でも出願ができるのか。

○教育長

できる。もし、一般がだめでも二次募集があるので、3回は公立高校を受けるチャンスがある。

○天倉委員

この入試制度によりチャンスが増えるので、積極的に挑戦させるという姿勢はよいと思う。

問題は、失敗した子をどうフォローして、次に向かわせるかということ。また、この特色入学者選抜の合格率が、学校によって違うようだが、やはり日々の指導を本当に見直していかないと、いけないと感じている。

○教育長

入試制度も変わってきているので、子どもたちに社会が求める力を、日頃からつけていくことが大切。これについても校長会で話をしていきたい。

③ 心の相談箱の投函に係る対応等について

○大石課長より説明

2月は各中学校とも投函なし。

< 委員からの意見・質疑なし >

④ 令和6年度3月補正予算について

・学校教育課分(大石課長より説明) ※主に決算による減額

・社会教育課分(大賀課長より説明)

< 委員からの意見・質疑なし >

⑤ 令和7年度当初予算概要について

・学校教育課分(大石課長より説明)

・社会教育課分(大賀課長より説明)

・人権同和教育課分(藤岡課長より説明)

< 委員からの意見・質疑なし >

【追 加】

(事務局より)

○令和7年度児童生徒数見込みについて(R7.1.30 現在)

・小学校 908 人・中学校 476 人の予定

○令和6年度中学進学における指定校変更について

・11 名中 7 名が部活動を理由とする変更

○学校のミシン学習について

・小中学校全てミシン活動を行っている。川波小・津宮小・桜江小の3校は地域の方が入ってやっている。

○退職者、辞職者の辞令交付及び贈呈式について

・3月27日(木)午後1時半～ 市役所多目的ホールで開催予定

○津宮放課後児童クラブの移転について

・今後の予定について大賀課長より説明

給食費について

○天倉委員

物価が高騰しているが、給食費が上がることはないか。

○大石課長

R4年度以降は給食費を据え置き、物価高騰対策の補助金を出している。

国は令和8年度から小学校の給食費を無償化する方針。

午前11時48分終了